

Newsletter

埼玉県木造建築技術アドバイザーニュース

消防関連施設、鉄鋼造を木造に変更し入札不調を回避

鋼材の価格高騰と入手難により、埼玉県内市町村の軽量鉄鋼造による消防団関連施設の工事価格が上がっている。令和4年度に発注した新築工事が落札されず、今年度木造への見直し設計を実施した市町村があるなか、杉戸町では軽量鉄骨造で消防団分団小屋を建設する計画であったが工事価格が上昇する恐れがあったため、木造に変更して無事工事発注に漕ぎつけた。

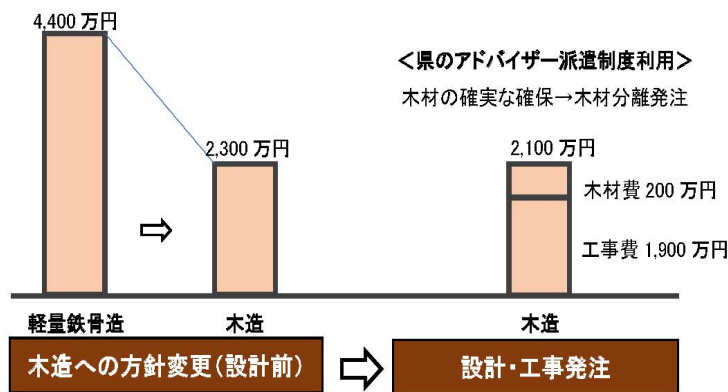
杉戸町に令和4年10月竣工した消防分団小屋は、軽量鉄骨造で計画していたが、木造に変更することで建設費を低減することに成功した良い例だ。ウッドショック下にあった令和3年7月軽量鉄骨造による建設を決定したが、概算工事費約4,400万円のところ木造に変更すると約2,000万円下がり、約2,300万円で建設できることがわかった。そこで、「木材の供給不安が解消できるならば」という条件付きで、令和3年10月木造で実施する方針に変更した。

木材の供給不安を回避するために木材の分離発注方式を採用し、工事費1,900万円、木材料費200万円で工事発注する運び

となった。木材の分離発注については、杉戸町では初めてのケースで経験がないため、埼玉県木造建築技術アドバイザー制度を利用して、分離発注の実務に関するアドバイスを受け、ウッドショック下のなか円滑に木材調達ができる体制を確保した。その後、令和4年1月から3月にかけて杉戸町建築課で自前設計し、令和4年4月入札不調を起こさず工事発注した。

消防関連施設ということで気になる防耐火については、建築基準法の22条区域内の防耐火基準を満たすだけでなく、消防車の車庫部分の防耐火性能をあげるなどの付加的な対策を実施している。(渡辺景己杉戸町建築課主幹談)

消防分団小屋の木材分離発注による建設(杉戸町)



消防団分団小屋の外観 (杉戸町)



2階の構造体、火打ちは鋼製 (杉戸町)



屋根の鬼飾り (屋根瓦共に鋼板製)
意匠性と耐震性を両立 (杉戸町)



2階内部畳・腰壁・漆喰壁 (杉戸町)